

第63回総会期第6回「東日本大震災」被災支援委員会報告

報告 小池正造

2月4日常置委員会後に、第6回「東日本大震災」被災支援委員会が、大宮教会を会場に行われました。

冒頭、秋山委員長より①宇都宮上町教会建築委員会に参加し、会堂再建についての話し合いを行ったこと、②台湾長老教会からアジア学院への献金の申し入れがあったが、計画通りに進んでいないため、教団へ借入を申し入れる可能性があること(なお、この件については、後日借入の申し出があり、承認をいたしました)、③教団本部より、教団救援対策活動報告をしたいとの申し入れがあり、関東教区では3月9日の記念礼拝の日に受け入れることなどが報告されました。続いて、飯塚統括主任より、佐野教会へ訪問予定は報告されました。小林委員より、食事ボランティアの状況(上尾合同教会1月30-31日、狭山教会2月12-14日)とニーズの高さが報告されました。また、ボランティアに行かれた方々への交通費補助についてご存じでない方々もいることも報告されました(なお、交通費補助についてはニュース58号をご覧ください)。群馬地区から伊勢崎教会の会堂が完成をし、3月23日に予定されていることが報告されました(裏面参照)。金刺主事から会計報告があり、神戸栄光教会、小田原教会より、クリスマス献金をいただいたことが報告されました。感謝いたします。教区東日本大震災救援募金の次月繰り越しは、15,244,288円です。

教団被災幼稚園の貸付金執行について、清愛幼稚園(四條町教会)と聖和幼稚園(竜ヶ崎教会)への執行が滞っていることがわかりました。それぞれに支払い期日があるため、秋山委員長より、教団対策本部に速やかな執行を申し入れることになりました。

桐生東部教会、益子教会、水戸自由ヶ丘教会は、教団への支援要請を2011年度中に行いました。当初教団は、支援要請の1/2を支援額と決定する方針でしたので、不足する額をどのように補うかが、教区支援委員会でも協議されてきました。特に益子教会、水戸自由ヶ丘教会は、経済基盤が小さいため教区(支援募金)から貸出をする形をとりました。いつまでも、この形態をとり続けることは好ましくありませんし、その後申請をした教会との公平性を保つためにも、三教会に対して、教団へ申請した支援要請額の支援されなかった1/2を、第4回常置委員会の決定を経て、教区から支援することになりました。

関東教区東日本大震災記念礼拝

2014年3月9日(日)午後4時

日本基督教団 筑波学園教会

説教 小林 祥人 牧師

(茨城地区長 取手伝道所牧師)

ボランティア募集

3月のボランティアは、食事ボランティアのみ募集をいたします。学生さんの申し込みが多く予想されるためです。ご了承ください。

問合せ 小林祥人(090-3529-5140)

東日本大震災国際会議のご案内

原子力安全神話に抗して ―フクシマからの問いかけ―

◆東日本大震災3周年記念礼拝

3月11日(火)午後2時～3時30分

★場所 東北学院大学ラーハウザー記念礼拝堂

◆東日本大震災国際会議記念講演

3月11日(火)午後4時～5時30分

講演 姜尚中氏(聖学院大学全学教授)

「嘆きと悲しみは逃げ去る」

伊勢崎教会 伝道師 遠藤尚幸

主の御名を賛美いたします。初めに、私たち伊勢崎教会に対しまして、教団、教区、地区をはじめとして多くの方々に祈り、励ましを頂き、心より感謝申し上げます。

さて、私ども伊勢崎教会は、今年度、会堂建築の歩みを進めてきました。去る 12 月 1 日（日）、待降節が始まるその日に、会堂の定礎式を執り行うことが出来ました。7 月 1 日の起工式から始まった会堂建築の歩みは、この定礎式を経て、その週に会堂の引渡が完了、無事に新会堂の完成にいたりしました。

思えば、伊勢崎教会は、東日本大震災が起き、旧会堂が使用できなくなってから、約 2 年 9 ヶ月間、シオン館で礼拝を守り続けてきたこととなります。伊勢崎教会は、その間、多くの方々に支えられながら、主日ごとの礼拝を守ってきました。私は、そんな約 2 年 9 ヶ月間のシオン館での礼拝の最後の日、神様が、この伊勢崎教会をしっかりと導いて下さっていたことを、まざまざと知らされた思いがいたしました。伊勢崎教会の歩みは一度たりとも神様に見捨てられたことはなかった。神我らと共にあり。そのように教会は、神様に導かれながら歩んできたのだと気づかされました。

定礎式は、新会堂において、主日礼拝の中で行いました。新会堂の講壇は南側を向いています。それ故に、講壇は、冬の日差しが低い時には、南から差し込む強い光で照らされます。それはちょうど、午前 11 時頃、説教のその時です。私は定礎式の説教中、そんな眩しく強い光の中で、キリスト者の生涯というのはこういうものかもしれない、と考えさせられました。人生が最も暗く、そして寂しい時に、ちょうどそこにキリストの光が差し込んでくる。私は、説教のその時に合わせてちょうど光が差し込んでくる講壇に立ちながら、そのことを思わされました。

伊勢崎教会にもまた、74 年間この地に建ち続けた、歴史ある旧会堂の解体という、最も暗くさびしいこの時に、新会堂の完成という眩いばかりの光が差し込みました。もう私たちは恐れる事はない。この光の中を再び歩んで行くことが出来る。新会堂完成の喜びは、私たちに、真のキリストの光、私たちが携え、宣べ伝えるように与えられているもの、十字架と復活の希望を示すものでした。

定礎式で与えられたみ言葉は、イザヤ書 35 章 10 節以下のみ言葉です。

主に贖われた人々は帰って来る。
とこしえの喜びを先頭に立てて
喜び歌いつつシオンに帰り着く。
喜びと楽しみが彼らを迎え
嘆きと悲しみは逃げ去る。

キリストの光の中であって、嘆きと悲しみは逃げ去っていく。この大いなる恵みの中で、私たちは、来る 3 月 23 日（日）午後 3 時より、日本基督教団総会議長石橋秀雄牧師の司式のもと、献堂式を執り行います。ただ神のみに栄光が帰されますように。

